

髄膜炎菌感染症

どんな病気？



侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌が髄液または血液などの本来細菌がない部位に侵入することを介して発症する感染症です。髄膜炎菌は、せきやくしゃみによってヒトからヒトに感染します。症状としては、発熱、頭痛、強い光に不快感や痛みを感じたり、筋肉痛、倦怠感などがみられます。発症後は、急速に症状が進行し、24から48時間以内に死亡に至るケースもあります。初期症状は、かぜのような症状で診断が難しい病気ですが、進行が速く重症化しやすいため、早期の診断、治療が重要です。

ワクチンの接種対象

任意接種です。国内外にかかわらず学生寮や部活動などで集団生活をされる方や、年齢にかかわらず髄膜炎菌の流行地へ旅行される方、髄膜炎菌ワクチンが定期接種になっている国へ留学される方には、接種が勧められています。